

第15回

日本バイオロギング研究会シンポジウム

「極域研究の今」

大会プログラム

日時：2019年9月27日(金)ー28日(土)

場所：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館

主催：日本バイオロギング研究会

第1日目 2019年9月27日(金)

9:30 開場・受付 (場所: 楽水会館)

10:00-12:00 テーマ講演

10:00-10:30 「北極海の海水分布予測: 現状とアイデアとストラテジー」
島田浩二 (東京海洋大学)

10:30-11:00 「北極の環境変動に対する海鳥の応答」
高橋晃周 (国立極地研究所)

11:00-11:30 「南極の氷がなくなるとペンギンはどうなるか」
渡辺佑基 (国立極地研究所)

11:30-12:00 「南極・北の浦海水下におけるノトセニア科魚類の超音波
テレメトリ」
市川光太郎 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

12:00-13:30 昼休憩

13:30-16:15 一般口頭発表(10件、S: 学生発表)

13:30-13:45 「潜水行動から見るオサガメの体温調整と採餌時間への影響」
奥山隼一・Scott R. Benson・Jeffrey A. Seminoff・
Peter H. Dutton

13:45-14:00 「低い休止代謝速度と高い抵抗係数がウミガメ類の巡航遊泳速度
を遅くする」
木下千尋^S・福岡拓也・檜崎友子・宮山大・新村誠也・
新妻靖章・佐藤克文

- 14:00-14:15 「ウミガメの心拍数計測法の開発」
坂本健太郎・宮山大・木下千尋・福岡拓也・石原孝・佐藤克文
- 14:15-14:30 「ロボットテクノロジーを用いたマッコウクジラの捕食行動観察
のためのクジラ用ローバー開発と試行の進捗」
森恭一・妻木勇一
- 14:30-14:45 「低消費電力化のための観測形態に応じた間歇動作手法の実装」
大井崇広^S・遠藤雪岳・熊木武志
- 14:45-15:00 休憩
- 15:00-15:15 「カブトガニの活動リズム：
概日リズムから概潮汐リズムへの半月周期の交代」
渡辺伸一
- 15:15-15:30 「加速度計を用いたニシオンデンザメのファインスケールでの
行動解析」
平田緑^S・Eric Ste Marie・Nigel Hussey・渡辺佑基
- 15:30-15:45 「秋～冬季の琵琶湖沿岸におけるコイおよび他魚種の採餌生態」
吉田誠・佐藤克文・馬淵浩司
- 15:45-16:00 「汽水域におけるクロダイの経験塩分の測定」
安田皓輝^S・松井健介・渡辺伸一
- 16:00-16:15 「メバルは群れで帰巢するか：
高精度測位手法を用いた追跡の試み」
高木淳一・市川光太郎・荒井修亮・三田村啓理

17:00 ナイトセッション開場・受付（場所：生協2階）

17:30-20:00 ナイトセッション（ポスター7件、S：学生発表）

- P1 「ペンギンの採餌行動圏のコロニー間分離 — 定着氷がもたらす影響」
伊藤健太郎^S・渡辺佑基・國分瓦彦・渡邊日向・高木淳一・高橋晃周
- P2 「超音波テレメトリー手法を用いた定置網内におけるマアジ・ブリの遊泳行動」
岩原由佳・日高浩一・小田憲太郎・保尊脩・黒坂浩平・森下浩司・鶴専太郎・廣田将仁
- P3 「オオミズナギドリの運動データを用いた波浪の推定」
上坂怜生^S・後藤佑介・米原善成・小松幸生・佐藤克文・坂本健太郎
- P4 「アオウミガメの心拍と活動に対する応答」
奥山隼一・塩澤舞香・塩出大輔
- P5 「マカジキの鉛直移動にはどんな意味があるのか」
土屋昌範^S・青木かがり・佐藤克文
- P6 「ヤマコウモリの採餌飛行時における大規模ナビゲーション戦略」
藤岡慧明・中井元貴・福井大・飛龍志津子
- P7 「日出日没付近におけるキングペンギンの採餌効率」
渡邊日向^S・塩見こずえ・佐藤克文・高橋晃周・Yves Handrich・Charles A. Bost

第2日目 2019年9月27日(金)

9:30 開場・受付 (場所: 楽水会館)

10:00-12:00 ワークショップ

「バイオリギング×オープンサイエンス

～バイオリギング研究をより身近に」

主催者: 吉田誠 (国立環境研究所琵琶湖分室・特別研究員)

最近、マスメディアや書籍など様々な媒体を通じて、バイオリギング研究とその成果が少しずつ社会に知られるようになり、研究者自身が一般向けのアウトリーチに携わる機会も増え始めている。では、バイオリギング研究の成果を今まで以上に広く知ってもらうには、どのような取り組みが必要だろうか。また、そのための効果的な手法にはどのようなものがあるだろうか。

本ワークショップでは、専門家だけでなく非専門家にも学術的調査への参画や研究成果へのアクセスを可能とする「オープンサイエンス」をキーワードに、オープンサイエンスの研究者(一方井)および実践者(藤木)に、各々の取り組みについてご講演いただく。また、バイオリギング研究者(木下、吉田)からも関連した話題を提供する。

誰もがバイオリギングをより身近に感じられる未来に向けて、研究者・非研究者を問わずより幅広い層の人々が今後、どのような形でバイオリギング研究に関わり、研究成果をいかに共有・利活用しうるか、参加者も交えて議論したい。

「オープンサイエンス(O.S.)とは」 一方井祐子(東大 Kavli IPMU)

「O.S.の方法論1:クラウドファンディング」 木下千尋(東大大海研)

「O.S.の方法論2:市民科学」 藤木庄五郎(バイオーム)

「O.S.の方法論3:オープンデータ」 吉田誠(国環研琵琶湖)

■共同開催者

木下千尋（東京大学大気海洋研究所・博士課程）

■招待講演者

一方井祐子（東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構・特任研究員）

<https://db.ipmu.jp/member/personal/5518ja.html>

藤木庄五郎（株式会社バイオーム・CEO）

<https://biome.co.jp/about/>